

4 ひえ種子（在来種）の保存年限について（農試 県北分場）

(1) 背景とねらい

水田転換作物として青刈りヒエが導入されているが青刈り栽培の場合は採種が行なわれないことが多い。品種としては晩生種が多収であるが、種子の不足から本県在来種の栽培が多い現状である。

今回、在来種を採種した場合の貯蔵年限について若干の知見を得たので参考に供したい。

(2) 技術内容

通常のひえ種子であれば、一般的な常温貯蔵で実用的保存年限は5年である。

(3) 試験成績の概要

年次別出芽調査

採取後の手数 貯蔵方法 品 種 名	①昭和50年産 採種後5年目		②昭和53年産 採種後2年目	③昭和54年産 採種後1年目
	低 温	常 温	常 温	常 温
1. ヤリコ（早生）	89%	70%	91%	100%
2. 朝 鮮（中生）	91	88	89	98

注) 1) ①は本場畑産 ②③は県北分場水田産

2) ハウス内に水稻育苗箱に各100粒播種、調査。

3) 貯蔵条件

- ・低温貯蔵（本場低温庫）～庫内温度15.0℃以下，庫内湿度30%以下
- ・常温貯蔵～収納舎

4) 調 査 月 10月

(4) 残された問題点

- 1) 作期と種子生産量および発芽率
- 2) 晩生品種の保存年限と発芽率

(5) 指導上の留意点

種子貯蔵には温度変化が少なく，湿気のない場所に保存すること。